2024 年 1 月 12 日

1 月 2 日 東京国際空港（羽田）での航空機衝突事故に関するコメント

航　空　連　合
事務局長　長谷川　樹

●2024 年 1 月 2 日、東京国際空港（羽田）にて日本航空機（A350 型機）と海上保安庁機（DH8C 型機）が滑走路上で衝突する事故が発生し、海上保安庁機に搭乗していた 5 名の尊い命が失われた。犠牲になられた海上保安庁職員およびそのご家族の皆様に深い哀悼の意を表すとともに、事故によって心身に傷を負われた皆様へ心からお見舞いを申し上げる。

●乗務員の冷静かつ的確な判断に基づく緊急脱出や空港関係者、医療関係者など多くの方々の支援・協力により、日本航空機の乗客・乗員 379 名の命を守ることができた。事故後、羽田空港 C 滑走路が閉鎖となり、多くの便が欠航となったが、全国の航空関連産業で働く仲間の奮闘によってハンドリングが安全に完遂できたことへ心から敬意を表したい。そして、新幹線の臨時運行をはじめ、空港アクセスでの支援など多くの交通運輸に携わる皆様のご協力に心から感謝申し上げる。

●事故によって、航空関連産業で働く仲間は大きな衝撃を受けているが、労働組合として、そうした職場の思いや一人ひとりの気持ちに寄り添ったうえで、これまでも安全を支えてきた自信と誇りを持って日々の仕事に向き合うことができるよう職場を点検するとともに、私たち自身が安全への意識を今一度高めることによって、安全を基盤とした産業の発展を実現し、これからも社会に貢献していく。

●現在、運輸安全委員会によって原因究明が進められているが、航空連合はこれまでも事故の責任追及ではなく、再発防止が第一義でなければならないことを強く訴えている。今後の事故調査の推移を注視した上で、今回の事故で明らかとなった課題を点検し、再発防止の徹底を図るとともに、安全を前提として、空港の価値を最大限発揮できる環境の整備にむけた産業政策提言を引き続きとりまとめ、実現に取り組んでいく。

●航空連合は、安全運航の堅持が産業の存立基盤であるとの認識に立ち、すべての運動を推進してきた。今回の事故をふまえ、そうした理念を揺るぎないものにすべく、安全を支える働く仲間が結束し、航空連合ビジョン「いつの時代も社会から必要とされ、働く仲間がやりがいを感じ、誇りを持って働ける産業」の実現を目指して取り組みを力強く進めていく。

以上